

令和6年度 浜松開誠館中学校・高等学校 学校評価(自己評価)

最終報告版(R7.3.31)

教育宣言	ユネスコとSDGsから世界を学び、徳育より日本の心を育みありがとうの拡がる学校
学校教育目標	「世界を視野に入れ社会に貢献できる生徒」の育成をめざす ・思いやりの心を持つ生徒 ・自分で考え責任を持って行動できる生徒
令和6年度重点指導目標	「自己肯定感を高め主体性を発揮できる生徒の育成」「信頼される学校」 1. 心を大切に本校の教育の柱「徳育」を確立する→SEL→Well-being 2. 2. 図ネスコスクールとしての誇りを持ち、課題解決に向けて主体的に考え行動できる生徒の育成 3. 学力向上(依存的学習者から自立的学習者へ) Beyond IB

評価項目	目標	具体的な活動・取り組み	判定	成果および改善点	学校関係者評価委員による評価 (R7.3.5実施)	
					は 自 適 己 切 評 か 価	学校関係者からの主な意見(抜粋)
徳育指導	・徳育事業(授業・出張授業・オープンキャンパス)の充実を図るために、綿密な計画準備のもと、組織的、且つ長期的に取り組んでいく。 ・徳育授業の質を高め、維持・管理する。 ・探究学習に関する情報を収集し、プログラムの内容を検討する	・徳育の情報(教育価値)を発信する。 ・生徒の自己実現力や進路実現に繋がるように取り組む(「夢カルテ」、「フォーサイト」の活用推進、「チャレンジ」の意識づけ、プレゼンテーション力の向上) ・「K-compass」「7つの習慣J」プログラムの内容を見直し、修正、改訂する。 ・他校の取り組みを参考にし、有識者の考えや意見を取り入れる。	B	・公立中への出前授業等により、徳育の価値及びその効果について発信することはできた。 ・夢カルテやフォーサイトの活用によって、生徒の行動計画に関する意識づけには効果があった。今後も効果的な活用の仕方を情報発信していく。プレゼンテーション力の向上については講師を招聘するなど、時間を設けてスキルの向上に繋げる必要がある。 ・K-compassにおいては、一部内容変更したが、今後も随時プログラムの内容を修正するようにしていく。7Jについては、時代の背景に合わせるようプログラムの内容を検討し、新たな内容に変更するようFCEに依頼をかけた。(生徒同士による対話型へ)	A	・先生の指導に差が出てしまわないよう、フォーサイトの活用に活路を見つけていただきたい。
学習指導	・学習指導要領を実践し、研修テーマにより実践し、質の高い授業を目指す。また、教科の研修テーマに基づいて、研究授業を行う。ICT機器を活用した授業実践をサポートする。 ・評価評定の適切な実施に向けた支援・管理、計画的な教務業務の遂行を促す。 ・読書活動の充実を図る。	・学習指導要領など教育関係時事の情報提供をする。 ・教科会議で評価の目線あわせや教科研修を行い、研究授業の実践と反省会の計画・資料をまとめる。 ・AIドリル・ICT機器活用に関する教職員を対象とした講習会を実施する。 ・評定基準の見直しをするほか、入力済評定の確認や妥当性の確認をする。 ・図書委員会と連携し、読書週間等の呼びかけをする。図書館便りを活用し、定期的に図書等の紹介をする。	B	・教育関係時事や学校としての新しい取り組みの情報提供はできたが、迅速さが足りなかった。 ・教科会議で評価の目線あわせや教科研修を行い、研究授業の実践と反省会の計画・資料のとりまとめを行うことができた ・AIドリル、ICT機器活用に関する教職員を対象とした講習会を行うことができた。内容をさらに精査し充実させていく。 ・評価評定を適切につけ、生徒・保護者に伝えられるよう呼びかけた。 ・図書委員会と連携し、読書週間等の呼びかけを行い、図書館便りて図書の紹介をすることができた。	B	・他校に先がけて定期テストを廃止して2年。環境変化で大学入試では一般選抜割合が減る傾向もある。ただ、保護者の受け止めに温度差もあるので、実際の学習定着度がどうなっているか振り返り、指導に活かしてほしい。
進路指導	・SDGsをふまえた世界・地域社会に貢献する目的と意志を持った生徒を進路活動を通して育成する。 ・生徒・保護者の希望をふまえながらも、より高い目標を目指すように促し、進路実績、生徒募集活動に貢献し得るものになるように各学年で進路支援を行う。 ・総合型選抜で合格できる学力と特色を持つ生徒の育成に努める。	・SDGs・社会貢献をふまえて将来を見据えた進学先を考えられるよう助言を行う。 ・教員の進路指導力向上のための研修会を企画し運営する。また模試の受験において十分な活用となるよう、生徒、教員に対し事前指導・準備・実施・事後指導を行う。学力向上会議を開催する。 ・マナビングと連携し、学年教員、生徒へ落とし込みをする。 ・校内大学説明会(KUコネクト)等を実施し、進学意識を高めさせる。 ・探究活動と連動して総合型選抜の調査を行い、生徒へのマッチングにつなげる。	B	・6～10月に計10校の大学入試担当者による大学説明会を放課後に開催した。パンフレットやWebでは得られない生の情報を聞くことができ、生徒が大学について情報を得る機会となった。 ・生徒向けや保護者向けの進路説明会、進路講演会を各学年適切な時期に実施した。 ・高3生徒による高1、2年生に対する受験報告会を進学・グーグル・コースは1月に実施し、進路意識向上を早めることにつながった。 ・校内で実施された進路活動の様子はホームページで発信した。年々増加傾向にある総合型選抜についての指導を検討していくことが課題で早期からの指導が必要である。	A	・今年の高3は新課程の学年となり、総合型選抜の増加なども話題にあがっている。本校における進路状況(区分)の変化についても今後情報提供いただけるとありがたい。 ・説明はその都度していただいているが、指定校推薦の流れや判断基準を子どもたちがいていねいに理解できると良い。
生徒指導	・生徒指導を通して、社会で通用する考え、行動がとれる生徒を育成する。 ・生徒会や専門委員会の活動等を通して、生徒自らSDGsを意識した活動やよりよい学校づくりを目指し、主体的に活動を行えるようにする。	・週1回、各学年の生徒指導担当者が集まり、課題を共有し、学年教員、生徒へ落とし込みをする。 ・校則検討委員会を引き続き設置し、定期的に意見交換を行う ・生徒集会や生徒新聞の発行、各専門委員会の掲示板などを通して生徒による情報発信を積極的に行う。 ・SDGsを意識した活動を計画・立案・実施できるよう助言する。	B	・週1回、各学年の生徒指導担当者が集まり、課題を共有し、学年教員、生徒へ落とし込みをすることができた。 ・校則検討委員会を引き続き設置し、挙がっている議題について議論を継続している。 ・生徒集会や生徒新聞の発行、各専門委員会の掲示板などを通して生徒による情報発信を行うことができた。 ・各専門委員会を通じてSDGsを意識した活動を計画・立案・実施できるよう助言できた。	A	・学校から駅方面のエリアが防犯上心配されるので、情報収集と指導をお願いしたい。 ・元気よくもっとあいさつができると良い。(あいさつ運動に参加してみても感想)
保健安全管理	・生徒・教職員の心身の健康への支援と不登校・いじめ等の予防、早期発見する。 ・校内美化を推進し、用具を大切に扱う意識の向上を図る。 ・防災意識の向上を図る。	・いじめアンケートなどを実施し、いじめ等の予防、早期発見をする。 ・清掃方法を変更し、一人一人が責任を持って清掃に取り組めるよう環境を整備する。 ・プレスリリースを積極的に出す。 ・防災訓練の企画、運営を行います。また、防災備蓄品の購入管理、防災への啓発運動を行う。	B	・不登校や悩み等について、HyperQU・知能検査の結果と併せてスクールカウンセラーによる教育相談を実施し、関係職員で共通理解を図った。 ・教育相談関連記事を2ヶ月に1回程度配布、いじめアンケートを年2回実施し、その後の追跡調査をおこない、いじめの防止に努めた。 ・清掃状態のチェック並びに清掃用具のチェックを定期的に行い、清掃環境を整えることができた。 ・校内における防災訓練を2回実施した。また、篠原グラウンドにおける避難訓練を5月に行った。	B	・通学時自転車利用の生徒へ交通ルール指導をお願いしたい。 ・地域の人が学校と触れ合える機会が増えると、校外の生徒さんにも声かけしやすくなるのではないかと。 ・朝の送迎時の保護者の自家用車のルールを決めてはどうか。 ・防災関連としての地域貢献のルール作りをしたらプラスの効果がある。 ・防災活動は地域との接点があればと思う。
外部への情報発信	・学校行事や生徒の活躍、特色ある教育的取り組みをメディア、HP、SNS等で学校内外へ広く発信する。 ・広報イベントにおいて本校の魅力と教育内容をわかりやすく広報する。 ・ユネスコSDGsを通じたグローバル教育をブランディング戦略の柱とした情報発信を行う。	・ホームページ・SNSを随時更新し、本校の教育を内外に広く発信する。 ・広報イベント告知ツールの作成、新聞折り込み、在校生姉妹への配布、電光掲示板の有効活用を行う。 ・プレスリリースを積極的に出す。 ・生徒会、各学年生徒と連携し、生徒が主体となってオープンキャンパスを実施する。 ・各種イベントでSDGs部の出展ブースを設けることで活動内容を広くアピールする。	B	・学校行事や生徒の活躍、特色ある取り組みについて速報性をもって学校ホームページにて発信することができた。課題点としてInstagramをより有効的に活用したい。 ・プレスリリースは積極的に出すことができた。 ・オープンキャンパスにおいてはSDGs部の出展ブースを通じてユネスコSDGsの取り組みを来校者に身近に感じていただくことができたことと考える。次年度はオープンキャンパスの企画面で生徒の意見をより多く取り入れ主体的な生徒の姿を小中学生とその保護者に見せることができるよう企画していきたい。	A	・広報の取り組みに関し、地域を含めてもう少し幅広く捉えてもらえるといい。 ・地域への広報・理解という点で、「ふれあいコンサート」もまた開催してもらえるとうれしい。
グローバル推進	・持続可能な教育を行い、生徒の心の中に「平和の砦」を築く。 ・SDGs課題について考え解決を目指して行動する生徒を育成する。 ・アジア姉妹校、海外からの学校との交流を行う。 ・異文化学習・異文化理解、異文化に触れる活動、言語学習の機会を促進する。 ・横断型カリキュラムの開発に向けた研究を行う。	・外部から紹介されるイベントを生徒に紹介し、参加する。 ・SDGsに関わるアクションを生徒が主体的に起こせるようにファシリテートする。 ・姉妹校交流とのパートナーシップを確立・維持し、相互協力、情報の交換、独自の学習活動を行うほか、海外の学校との交流会などの企画を行う。 ・知識や有益な学習活動を共有するために、他校への訪問を企画する。	A	・全校参加型のユネスコウィークを開催して、全校生徒がクラススピーチ、その代表者が全校スピーチ「ユネスコスクールの主張」で発表し、ホールスクールとして意識を高めてSDGsアクションを促進することができた。 ・4月に台湾、7月にモンゴル、11月にニュージーランドの現地校生徒を受け入れて交流を行うことができた。 ・オーストラリアのDalby High Schoolとの姉妹校協定を締結することができた。	A	・個々の生徒が興味を持ち、それぞれがSDGsの中の事案に参加できると良い結果につながるのではないかと。 ・学校から地域、グローバルという視点で意識していただくとうれしいのではないかと。